

# 道徳的実践力を育てる高等学校家庭科の研究

— 道徳的心情の自覚を深め、行動につなげる指導法の工夫 —

浮田規子<sup>1</sup>

新高等学校学習指導要領では道徳教育の充実が求められ、教育活動全体を通じて道徳教育を行うこととしている。高等学校の教科指導で行う道徳教育の研究として、家庭科の「子どもの発達と保育」に関する学習で、中学校道徳の内容項目を参考に「家族愛」を扱った。将来、親になったときにより良く子育てをしようとする道徳的実践力の育成を目的として、道徳的心情の自覚を深め、その心情に基づいて行動できるようになるための指導法を明らかにした。

## はじめに

平成20年1月に出された中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」では、豊かな心の育成のための指導の充実として、道徳教育の充実・改善が示されている。それに伴って、平成21年3月に告示された高等学校学習指導要領で、「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育について、その全体計画を作成すること。」が新たに規定された。

高等学校では、小学校、中学校と異なり道徳の時間が設けられていないことや、学校の教育活動で教科指導が占める割合は大きいことを踏まえ、教科指導における道徳教育の充実は重要であると考えた。ここでは、家庭科の教科指導での道徳教育の指導法の工夫について研究した。

## 研究の内容

### 1 研究の背景

#### (1) 高等学校における道徳教育

高等学校の道徳教育は、人間としての在り方生き方に関する教育を行うことである。このことについて、「在り方生き方に関する教育を教育活動全体を通じて行うこととされているが、そのことを意識した指導が十分にはなされていない」（中央教育審議会 2008）ことが、課題として指摘されている。自分の教育活動を振り返ってみると、総合的な学習の時間で高齢者の介護体験の指導を行ったり、ホームルーム活動で携帯電話のマナーや交通安全の指導を行ったりと、道徳教育につながる数多くの教育活動を行ってきた。しかし、教科指導では、道徳教育を意識した指導が十分であったとはいえない。それは、教科指導では教科目標に基づいた指導内容が決められているからだと考えられる。

そこで、教科指導における道徳教育をどのように行えばよいか研究することは重要であると考えた。

#### (2) 子育てについての社会的課題

少子高齢化や核家族化が進むことで、子どもの頃に異世代の人たちと過ごす機会が少なくなっている。育児不安や児童虐待などの社会的な課題の背景には、子どもと関わった経験が少なく、どのように子育てをすればよいのか分からないという気持ちが影響していると考えられる。総務省が平成22年12月にまとめた「児童虐待の防止等に関する意識等調査結果」によると、児童虐待の発生要因として、「保護者の養育能力の不足」と回答した数が最も多いことが示されている（総務省 2010）。将来、親になったときに備えて、生徒たちに子どもとの関わり方や子育てについて指導することは重要であると考えた。

#### (3) 生徒の実態

総合的な学習の時間等で実施している保育園実習や小学生との交流での生徒の姿を見てみると、子どもに対する思いやりの気持ちをもっている、実際にどのように接してよいのか分からないと戸惑っている様子が見受けられた。自分のこれまでの教科指導を振り返っても、「子どもの発達と保育」の学習において、生徒が子どもとの関わり方を十分に身に付けることができていなかった。思いやりの気持ちを行動に移すための指導が必要であると感じた。

## 2 研究テーマの設定

### (1) 本研究で扱う道徳的実践力

平成21年11月に出された『高等学校学習指導要領解説 総則編』では、「人間としての在り方生き方に関する教育は、学校の教育活動全体を通じて各教科・科目、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて実施するものである。」（文部科学省 2009 p. 19）と述べられている。本研究では、家庭科の教科としての特質に応じて、「子どもの発達と保育」の学習において、人間としての在り方生き方を踏まえ、親になったときにより良く子育てをしようとする道徳的実践力を育てることを研究テーマとした。

1 神奈川県立舞岡高等学校  
研究分野（高等学校道徳教育）

## (2) 指導法を工夫することの必要性

人間としての在り方生き方に関する教育について、『高等学校学習指導要領解説 総則編』では、「人間としての在り方生き方について生徒が自ら考え、自覚を深めて自己実現に資するように指導の計画や方法を工夫することが重要である。」(文部科学省 2009 p. 19)と述べられている。教科指導において道德教育を行うためには、生徒自身の内面に訴えかけ、自ら考え、自覚を深める指導法の工夫が必要である。

## (3) 道徳的心情の自覚を深め、行動につなげる

道德教育の目標は、道德性を養うことである。道德性を構成する諸様相には、「道徳的心情」、「道徳的判断力」、「道徳的実践意欲と態度」などがある。道徳的行為の動機付けとなる「道徳的心情」は、「より良く子育てをする」という道徳的行為を実践するために特に重要である。

そこで本研究では、育ててくれた人への感謝や、家族に対する思いやりの気持ちを善いことだと感じる「道徳的心情」の自覚を深め、道徳的心情を基に子どもの気持ちに寄り添って関わろうとする「行動につなげる」ための指導を目指した。このような指導によって、将来、生徒が親になったときにより良く子育てをしようとする道徳的実践力を育成できると考えた。

## 3 研究の手立て

### (1) 道徳の内容項目の設定

教育活動全体を通じて道德性を養うための視点として、平成20年9月に出された『中学校学習指導要領解説 道徳編』では、「道徳的価値を意識しながら指導することにより、道德教育の効果も一層高めることができる。」(文部科学省 2008 p. 107)と述べられている。道徳的価値の中で、高等学校家庭科の目標と関連があるものには、次のようなものが挙げられる。

家庭科と関連がある道徳的価値 ・ 基本的な生活習慣 ・ 思いやり ・ 生命尊重 ・ 勤労 ・ 家族愛 ・ 郷土愛 ・ 伝統文化 など
--

そして、道徳的価値を含む内容を表現したものが、「道徳の内容項目」である。小学校や中学校の学習指導要領では道徳の内容項目が示されているが、高等学校にはなく、高校生の発達段階に応じた道徳の内容項目を考える必要がある。本研究では「子どもの発達と保育」の学習内容と関連が深い、中学校の道徳の内容項目のうち、「4 主として集団や社会とのかかわりに関すること」の(6)「家族愛」を発展させ、将来、生徒自身がつくる家族のことを踏まえた、高等学校としての道徳の内容項目を次のように考えた。

中学校の道徳の内容項目 4-(6) 父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。
---

(文部科学省 2008 『中学校学習指導要領解説 道徳編』 p. 59)
--------------------------------------

本研究における道徳の内容項目 (高等学校) 父母への敬愛の念を深め、さらに将来、充実した家庭生活を築くことができる基盤をつくる。
---

この内容項目にのっとり、「子どもの発達と保育」の学習指導について考えた。

## (2) 指導法の工夫

『中学校学習指導要領解説 道徳編』では、道徳の時間における指導法の工夫について述べられている。様々な指導法の中から、教科指導で活用できると考えた指導法を検討し、本研究に取り入れた。

### ア ワークシートの工夫

『中学校学習指導要領解説 道徳編』によると、「生徒が自分自身の感じ方や考え方を言語化することによって、自ら考えたり見直したりしていることを明確にすることにつながる」(文部科学省 2008 p. 101)と述べられている。そこで、自分の意見と他者の意見を比較しながら自分の考えを明確にし、まとめることができるように、ワークシートを工夫した。また、毎時間、授業の終末に自らの考えを振り返り、記述できるような工夫も取り入れた。

### イ グループでの話し合い活動

生徒が自分の考えを表現したり、他者の考えを聞いたりすることによって、いろいろな考え方や感じ方があることに気付き、自らの考えを深めることができるように、話し合い活動を取り入れた。話し合いをさせる際は、生徒が他者の考えを尊重し、お互いに協力しながら学び合う雰囲気を作るための指示を意識して取り入れた。

### ウ 教師の説話

『中学校学習指導要領解説 道徳編』では、説話とは「あるまとまりをもった内容を、教師が生徒に話して聞かせる指導方法である。」(文部科学省 2008 p. 93)と説明されている。道徳的価値に迫る説話となるように内容を精選し、話し方についても工夫し、生徒の内面に訴えかけるよう配慮した。

### エ 発問の工夫

生徒が内面と向き合うためには、自分のこととして深く考えられるように発問を工夫する必要がある。発問の際には言葉遣いに気を付けながら、道德教育のねらいに迫る発問になるように工夫した。また、正答は一つではなく、自分の考えを自信をもって表現するように伝えることで、生徒が意見を言いやすくした。その際、授業者は生徒の意見を尊重するように心掛けた。

### オ 役割演技

『中学校学習指導要領解説 道徳編』によると、役割演技などの表現活動を取り入れることは、生徒が主体的に道徳的実践力を身に付けることにつながると述

べられている（文部科学省 2008 p.94）。役割演技を行うことによって、親としてどのように行動すればよいのか、自分自身の問題として考えさせた。さらに、役割を交代させることによって、子どもの気持ちを理解させ、子どもの気持ちに寄り添った行動がとれるように配慮した。

#### カ 映像資料

視聴覚教材は具体的な場面を提示することで、生徒の共通認識を図ることができる。それに基づき授業を進めることで学習のねらいが明確化され、どのように行動したらよいかをイメージしやすくなる。また、実際に視覚に訴えることで、生徒の関心を高め、子どもに対しての思いやりの気持ちを深めることができる。

#### キ ゲストティーチャー

実際に子育てを経験している方の話には、説得力があり、より現実的なこととして生徒に受け止めさせることができる。また、他の教師の協力や家庭・地域との連携が道德教育に求められていることから、ゲストティーチャーを活用することにした。

#### (3) 学習活動における道德教育

教科目標が直接道德的価値と結び付けられなくても、教育活動の中で道德教育を行うことができる場面が考えられる。例えば、授業でのマナーは規範意識、生徒同士の学び合いは他者への配慮等、道德的価値を育てることにつながる場面がある。いろいろな場面で教師が意識して適切な指導・助言をすることで、道德教育を行うことができる。本研究では、授業開始時と終了時の挨拶や、学習への意欲的な態度、話し合いでの協力などを心掛けた指導を行った。

### 4 検証授業

#### (1) 検証授業の概要

平成22年9月から10月にかけて、所属校の第2学年「家庭総合」を履修している3クラスの生徒117名を対象に、「親の役割と保育」の単元で検証授業を実施した。道德のねらいを踏まえた指導計画は、第1表のとおりである。

第1表 「親の役割と保育」指導計画

時	○家庭科の主なねらい	・道德のねらい [道德的価値]
第1時	○子育てを取り巻く社会的問題とその原因を理解する。 ○子育ての社会的支援や家族の協力について考える。	・家族が協力して子育てをする大切さを知る。 [家族愛]
第2時	○親の役割と責任について理解する。	・育ててくれた家族に対する感謝の念を自覚する。 [家族愛]

第3時	○子どもの欲求とその表れについて理解する。 ○子どもの気持ちに寄り添った親の関わり方を考える。	・親として子どもの気持ちに寄り添った対応に、あふれる愛情を感じる。 [家族愛] ・子どもの行動を踏まえ、子どもを思いやる気持ちをもつ。 [思いやり]
第4時	○子育てをしている親の気持ちを考える。 ○子育ての意義について自分の考えをまとめる。	・我が子を思う気持ちから親の愛情を感じる。 [家族愛]

#### (2) 検証授業の展開

##### 【第1時】

家族が協力して子育てしようという気持ちになるように、導入で育児不安に関する読み物資料を用いた。そして、家族がお互いを思いやり、協力しながら行う子育てについて、「自分が子育てするならどんなことができるか」を考えさせ、ワークシートに書かせた。話し合いをさせる前に自分の考えを書かせることによって、話し合いで意見を出しやすくした。その後、話し合いをさせる時には、聞き手が記録しやすい発表を心掛けさせたり、司会役を決めさせて、協力しながら話し合いを進められるように助言したりした。さらに、グループでの話し合いで出た意見をまとめさせたり、出た意見を否定しないように指示したりした。そして、自分の意見と他者の意見を比較しながら振り返りができるように、ワークシートに自分と他者の考えを記述できる欄を設けた。グループで話し合った意見を発表させ、その内容も記述させた。

##### 【第2時】

親の役割と責任を考える導入として、育ててくれた人が自分にしてくれたことを考えさせた。素直に自分の気持ちを表すことができるように、教師が育ててくれた人への感謝の気持ちの説話をした。生徒の内面へ訴えかけ、照れくさい気持ちを和らげた。説話を参考として、小学生以前、中学生、高校生と年代別に感謝の気持ちを振り返らせるために、次のように声掛けをした。

「育ててくれてありがたいなあ、うれしかったなあ」と感じた出来事を思い出して書いてみよう。

その際、生徒の家庭環境への配慮から、「親」ではなく、「育ててくれた人」と表現した。また、書きたくないことは書かなくていいとも伝えた。

そして、育ててくれた人の気持ちを考えさせるために、次のように声掛けをした。

そのときの育ててくれた人の気持ちを想像して書いてみよう。

この場面でも教師の説話をを行い、育ててくれた人の気持ちを考えることができるようにした。

### 【第3時】

子どもの行動には理由があり、それを踏まえた親の関わり方を身に付けさせることを目的として、映像資料を用いた。今回は、親としてどのように関わればよいのかを具体的に考えさせるために、一つの映像を前半と後半の二回に分けて見せた。映像が終わってすぐ話を始めるのではなく、間を置いて、子どもの良さを感じる余韻に浸ることができるように工夫した。

映像の前半で、子どもがボールの取り合いになった場面を見せた。自分が親だったらどんな声掛けをするかを考えさせ、親役と子ども役に分かれて役割演技を行わせた。声掛けの言葉は、子どもの気持ちを想像しながら考えさせた。親役は考えた言葉を子ども役に向かって声掛けをし、子ども役にはその言葉を聞いて、どんな気持ちになったかを感じ取らせた。

後半は、実際に親が子どもに寄り添った声掛けをどう行ったかのビデオを見せて、そのとき親はどのような思いで子どもに声を掛けているのかを考えさせた。

### 【第4時】

現在、乳幼児を育てている人をゲストティーチャーとして招き、その話を聞かせることによって、「将来、自分が子育てするなら」と考えさせた。ゲストティーチャーを招く際、ねらいを明確にするために、授業の目標や学習内容、生徒たちの様子など、事前に打ち合わせを行った。第1時から第3時までには子育ての大変さについて学習してきたので、本時は子育ての良さや、親になって自分が成長したところを中心に話してもらった。家族に対する思いやりをもつことの良さに気づき、子育ての意欲をもたせるようにした。

最後に、子育ての意義を考えさせるために、4時間の授業のまとめとして、「親になることや子育てをすること」について、自分の考えの振り返りをさせた。

### (3) 検証授業の結果と考察

検証の結果分析には、検証授業前後に行った事前・事後アンケートやワークシートの記述内容を用いた。

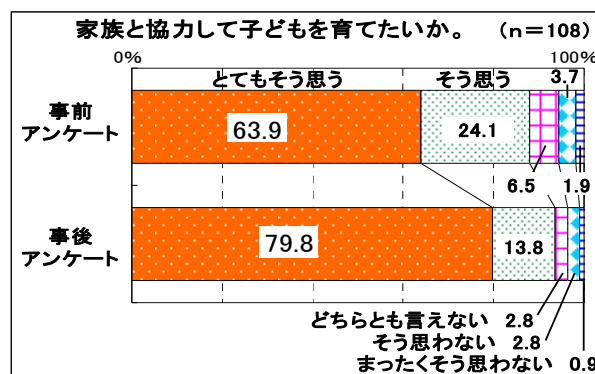
事前・事後アンケートは、子どもや子育てに対する意識や育ててくれた人への感謝の気持ちに関する生徒の変容を見るために、同じ設問で実施した。

#### ア 家族と協力する子育て

第1時は家族で協力する子育てというテーマで、話し合い活動をした。男子生徒Aは話し合い活動の前、「おむつを替える。お風呂に入れる。一緒に遊ぶ。家事を手伝う。時々話し合う。」と書いていた。しかし、話し合いで他者の意見を聞いた結果、授業の終末で行う振り返りでは、「お互いの悩みを話したり聞いたりして、心の不安をなくすようにする。二人で考えても、どう

しようもなくなったときは、周りの人や家族に相談して解決する。」と書いていた。初めは、夫婦だけで子育てをすると考えていたのが、お互いを思いやり、家族で協力して子育てをしようという気持ちに変化していた。女子生徒Bは授業の終末で行う振り返りで、「他の人の考えを聞いて、感謝の気持ちを伝えることや、周りの人に協力をお願いしながら子育てしたいです。」と書いていた。他者の意見を聞くことで、生徒の考えが深まり、具体的に自分が子育てする姿をイメージできるようになった。グループで話し合うことによって、自らの考えを振り返らせることができた。

さらに、事前・事後のアンケートで「家族と協力して子どもを育てたいか。」という質問をした(第1図)。「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせた肯定的意見は88.0%(95名)から93.6%(102名)と増加した。特に、「とてもそう思う」と答えた割合が、63.9%(69名)から79.8%(87名)になり、15.9ポイントと大幅に増加した。読み物資料やゲストティーチャーの話を聞いて、子育ての大変さや協力の必要性を感じたことで、子育てをするときは協力しようとする気持ちになった生徒が増加したと考えられる。話し合い活動や読み物資料、ゲストティーチャーなどの指導法を取り入れる工夫は、家族がお互いを思いやり、協力して子育てをしようという考えを深めさせるために有効であった。



第1図 家族と協力して行う子育て

#### イ 育ててくれた人への感謝の気持ち

育ててくれた人への感謝の気持ちについて、事前アンケートで約8割の生徒が「もっている」と答え、予想していた以上に、感謝の気持ちをもっていることが分かった。第2時の学習を通して、ワークシートの記述から感謝の自覚を深める指導を行った。

育ててくれた人がしてくれた出来事を書かせたところ、次のような記述が見られた。

#### 男子生徒Cの記述(中学生の時)

・反抗することが多くなり、つい口げんかすることもあったけど、育ててくれて感謝している。

教師が反抗期だったときの説話を聞いた生徒は、自らの姿と重ね合わせてこのような記述をしたと考えられる。生徒は育ててくれた人に対する感謝の気持ちを

振り返り、客観視することで、自分の素直な気持ちに気づき、感謝の気持ちを深めることができた。

さらに、女子生徒Dは「常に感謝しているつもりだけど言葉に表していないから、感謝の気持ちを言葉や行動で表していこうと思う。できることは手伝いたい。」と書いていた。「手伝う」という行動につながる意欲が見られ、本研究で設定した将来の子育てに対してだけでなく、今の家族に対する道徳的実践力を身に付けさせることもできた。授業の振り返りでは、次のような記述が見られた。感謝の気持ちを表した生徒が47名おり、さらに尊敬の気持ちまで深められた生徒が6名いた。そのうちの一部を例示する。

<p>「感謝の気持ち」男子生徒Eの記述</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うれしいなあと感じたことなどを初めて書いて、ちょっと恥ずかしかったけど、感謝しなきゃいけないことはたくさんあるなあと改めて感じた。</li> </ul>
<p>「尊敬の気持ち」女子生徒Fの記述</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親が子どもを育てるのは、産んだんだし、当たり前だと思うけど、ここまで育ててくれたことは当たり前ではないなあと思った。お金もかかっただろうし、大変なこともたくさんあったのに、育ててくれたことはすごいと思いました。</li> </ul>

書いて振り返ることだけでなく、子育ての大変さを学習するうちに、育ててくれた人への感謝の気持ちに改めて気付かせることができた。

このように、改めて感謝や尊敬の気持ちをもったり、行動につなげたりするなど、質的な向上が見られたと感じた。教師の説話や年代別に出来事を書かせるワークシートの工夫を行ったことは、育ててくれた人への感謝の気持ちを深めさせる上で有効であった。

### ウ 子どもの気持ちを感じ取る

第3時の役割演技では、姉弟がボールの取り合いをする映像を見せ、親だったらどのように声掛けをするか、ペアをつかって役割演技をさせた。そのときに演じたセリフを次のように記述していた。

親役(男子生徒G)	子ども役(男子生徒H)
一緒に遊んであげたら？	一緒にならいいかも。

役割演技を通して、子どもの気持ちを感じ取り、行動しようとする気持ちを育てることができた。授業の終末で、子どもの行動の学習を通して感じたこと、考えたことについて振り返らせた。女子生徒Iは子ども役で親の声掛けを聞いた感想として、「改めて考えると『順番ね』と言われてもそんなに貸したくない。」と書いていた。親に言われた時の子どもの気持ちを想像させることによって、親としてどのような関わり方をすればよいのか知ることができ、具体的にどのように行動すればよいのかを考えさせることにつながられた。役割演技は、子どもの気持ちを感じ取る上で有効であった。

### エ 子どもの気持ちに寄り添った親の関わり方

第3時終末の振り返りで、親として何に気を付けて

関わるのが大切かを記述させたところ、子どもの気持ちに寄り添うことの大切さを書いている生徒が81名いた。その中で言い方や態度など、子どもを思いやる気持ちを具体的な行動で表現した生徒が42名いた。次に挙げた例はその一部である。子どもの気持ちに寄り添った関わり方をしようとする姿勢が見られた。

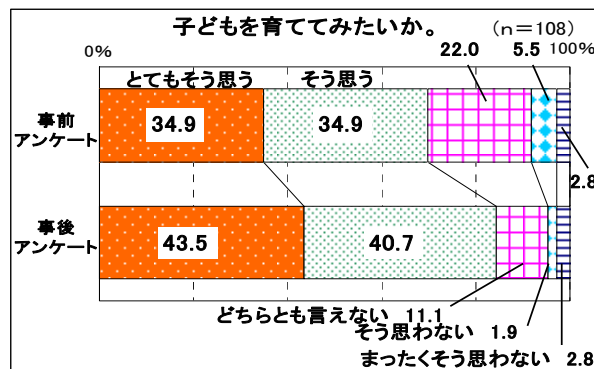
- ・子どもの気持ちを少しでも理解して、だめなことは『～だから、だめなんだよ』とわかりやすく伝えてあげる。
- ・強い口調で言ったりするのではなく、子どもの気持ちを考えて接することが大切。

映像資料で実際の親の関わり方を見ることによって、言葉の内容だけでなく、表情や言い方などから親の思いが伝わり、子どもの気持ちに寄り添った関わり方が具体的にイメージでき、子どもを思いやる気持ちを行動につなげることができた。映像資料は、子どもに寄り添った親の関わり方を指導する上で有効であった。

### オ 子育ての意欲

第4時にゲストティーチャーの話聞いた後の感想で、「子どもにきつく言わないようにしたい。」や「自分も妻を手伝ったり、相談を受けたりして、二人で子どもを育てたい。」と書いていた。子育ての具体的な話を聞いたり、子育ての意義を考えたりすることによって「自分が親になったら」や、「こんな親になりたい」と具体的にイメージさせることができた。

事前・事後のアンケートで、子育てに対する意欲として、「子どもを育ててみたいか。」という質問をした(第2図)。事前は肯定的な意見が69.8% (76名) だったのに対して、事後は84.2% (91名) と14.4ポイント増加していた。ゲストティーチャーの話聞いて、子育てには大変な部分もあるが、家族や周りの人たちと協力して子育てすればよいと前向きに考えられるようになった。ゲストティーチャーの話は、子育ての意欲をもたせる上で有効であった。



第2図 子育てへの意欲

以上のような指導法の工夫によって、育ててくれた人への感謝や、家族に対する思いやりの気持ちである「道徳的心情」の自覚を深め、その道徳的心情を基に子どもの気持ちに寄り添って関わる具体的な方法を考

えさせることで、道徳的な「行動につなげる」指導を行うことができた。

#### カ 親としての在り方

親としての在り方について、単元の振り返りとして、「親になること」について自分の考えを記述させた。「親としての自覚・責任」について記述した生徒が34名、「家族の一員としての自覚」について記述した生徒が17名、「生命尊重」について記述した生徒が12名いた。具体的な記述は、次のとおりである。

「親としての自覚・責任」に関する生徒の記述  
・自分のことより、子どもを優先する。自分の子どもがかわいくて、元気に育ててもらいたいと思う。自分が子どもの手本になる。(生活態度、人との接し方、思いやり)

「家族の一員としての自覚」に関する生徒の記述  
・母だから、父だからではなく、お互いに協力していくことが大切。

「生命尊重」に関する生徒の記述  
・命を育てることなので、手抜きや甘い考えではいけない。

生徒は親の関わり方の授業を通して心の触れ合いが大切なことを学び、ゲストティーチャーの話を受けて子育てには夫婦や親の協力が必要であると感じた。将来、親になったときにより良く子育てするために、家族がお互いに助け合って子育てをすることや子どもの生命を守ることの大切さに気付かせることができた。

以上のことから、親になったときにより良く子育てをしようという道徳的実践力を育てることができた。

#### キ 学習活動における道徳教育

グループによる話し合い活動では、自分と違う意見が出たとき、発表を聞いている生徒にはその内容をワークシートに記述させた。そこで、「聞いている人のことを考えて発表しよう。」と言うと、聞こえるように大きな声で発表したり、書き取りやすいようにゆっくり話したりする姿が見られた。また、聞き取りにくいときは、「もう一度お願いします。」と発表した生徒への敬意に基づく丁寧な言葉遣いもみられた。

そのほかにも、挨拶をすることや時間を守ること、話を聞く態度などを意識した声掛けをした結果、生徒の前向きに取り組む姿勢が見られるようになった。このように教科目標が直接道徳的価値と結び付けられなくても、教育活動の中で道徳教育を行うことができた。

### 5 研究のまとめ

#### (1) 研究の成果

本研究を通して、次の二点が明らかになった。

一点目として、指導法を工夫することによって、教科指導で道徳教育を行えることである。授業展開や単元全体の流れを踏まえて、生徒自身の問題として考え、自覚を深めさせることが大切であると分かった。

二点目は、教科目標と直接的な関連がなくても道徳性の育成を意識した道徳教育は行えることである。適切な指導・助言をすると、生徒自らが考え、一人ひとりがもっている道徳性の自覚を深めることができると分かった。

#### (2) 今後の課題

本研究で課題となっていることは、次の二点である。

一点目は、道徳的実践を行う機会をもてなかったことである。『高等学校学習指導要領解説 総則編』では、「道徳的実践を繰り返すことによって、内なる道徳的実践力も深まる」(文部科学省 2009 p.25)と述べられており、道徳的実践力を深めるためには、道徳的実践の場が必要である。直接子どもと関わる体験活動の候補として保育園実習が考えられるが、教科指導を通して全員の生徒に体験させることは困難である。そこで、総合的な学習の時間やホームルーム活動など、他の教育活動と連携することによって、道徳的実践の場を与える工夫を施す必要がある。

二点目は、教科指導における道徳教育の取組みを他教科にも広げることである。『高等学校学習指導要領解説 総則編』には、各教科・科目等と道徳教育との関連が新たに示された。その関連と本研究の成果を基に、各教科の学習内容で、どのような道徳の内容項目を扱い、どのような指導を行うことができるかを各授業担当者が考えていくことが大切である。

#### おわりに

本研究を通して、家庭科の指導法を工夫することによって道徳的実践力を育てることができると分かった。生徒に「人間としての在り方生き方」を考えさせ、将来の「生きる力」につながる道徳教育を他の単元や教育活動でも実践していきたい。

#### 引用文献

- 中央教育審議会 2008 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)」 p.125  
文部科学省 2008 『中学校学習指導要領解説 道徳編』 日本文教出版  
文部科学省 2009 『高等学校学習指導要領解説 総則編』 東山書房

#### 参考文献

- 総務省 2010 「児童虐待の防止等に関する意識等調査結果」 ([http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/38031.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/38031.html) (2010.12.27取得))  
小島宏 編 2010 『各教科・領域等における道徳教育の進め方の実際』 教育出版 pp.5-8, pp.99-107